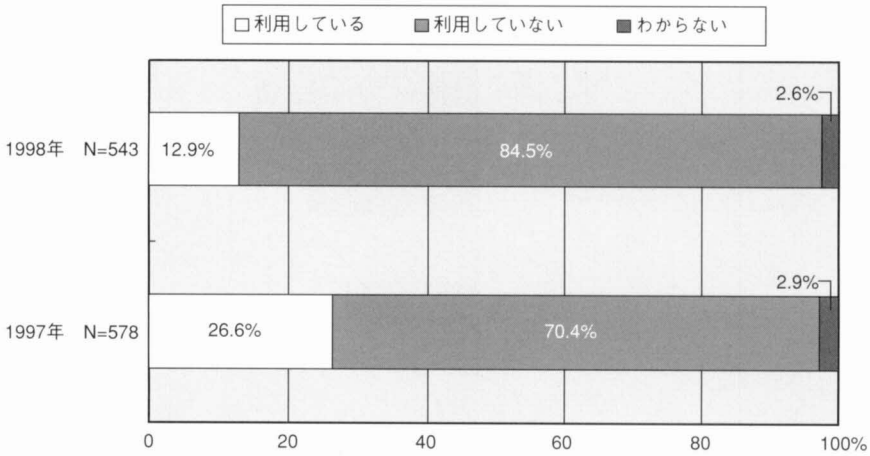
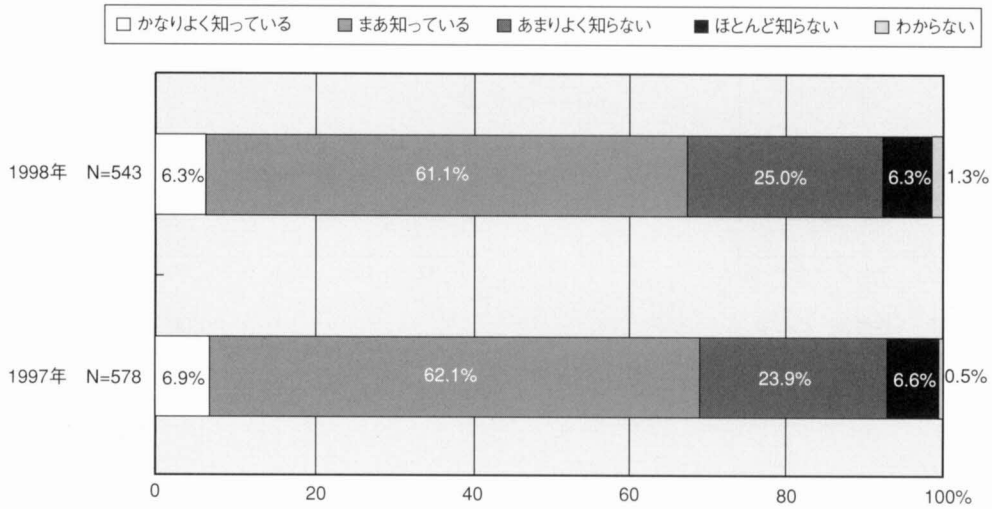
第５章　非インターネット利用者動向　▶パソコン通信サービス利用が激減

資料1-5-1　パソコン通信サービス利用有無（1997-1998年）



インターネット白書'98, インプレス
©Access Media International&IAJ, 1998

資料1-5-2　インターネットの認知度（1997-1998年）



インターネット白書'98, インプレス
©Access Media International&IAJ, 1998

解　説

1-5-1　非インターネット利用者のパソコン通信サービス利用有無

「非インターネット利用者の利用意向調査」では、昨年に引き続き「インターネット普及率調査」で現在インターネットを利用していないと答えたパソコン所有世帯から1,000世帯を抽出し、郵送調査でさらに詳しく今後のインターネットの利用意向に関して聞くことを試みた。その結果、543人から有効回答を得ることができた。

はじめにインターネットは利用していないが、パソコン通信サービスを利用しているかどうかを聞いた。

この結果、パソコン通信の利用は全体の12.9%を占めた。これを昨年の利用有無と比べると半分以下に激減していることが明らかである。インターネット利用者の急激な増加と比べてみればわかるようにこの1年間でパソコン通信サービスからインターネットへの利用の移行が急速に進んだことがその大きな要因と考えられる。

従来のパソコン通信サービス提供会社が一昨年来、インターネットへの接続サービスをセールスの前面に押し出したこともあり、ネットワークサービスといえば、パソコン通信でなくインターネットという時代に突入したといえる。

昨年ここで推察したように、まさに非インターネット利用者のパソコン通信サービス利用者がインターネット利用者の潜在需要層であったことが裏付けられた結果といえよう。

1-5-2　非インターネット利用者のインターネットの認知度

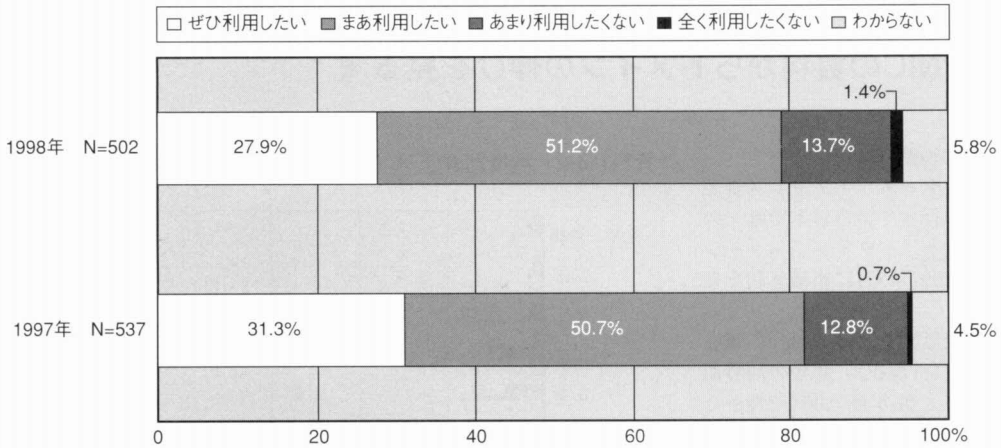
回答者がパソコンユーザーであるという前提のために全体にインターネットに対する認知度は高くなっている。「かなりよく知っている」と「まあ知っている」レベルの回答者の合計は67.4%に上り、昨年とほぼ同等である。一方の「ほとんど知らない」も全体の6.3%に過ぎない。

これらの傾向が昨年と比べてほとんど変わらない点については、パソコンユーザーにとってインターネットというものに対する認知が昨年のこの調査の段階ですでによく知られたものとして

インターネット白書／ ©1996-2012 Impress R&D

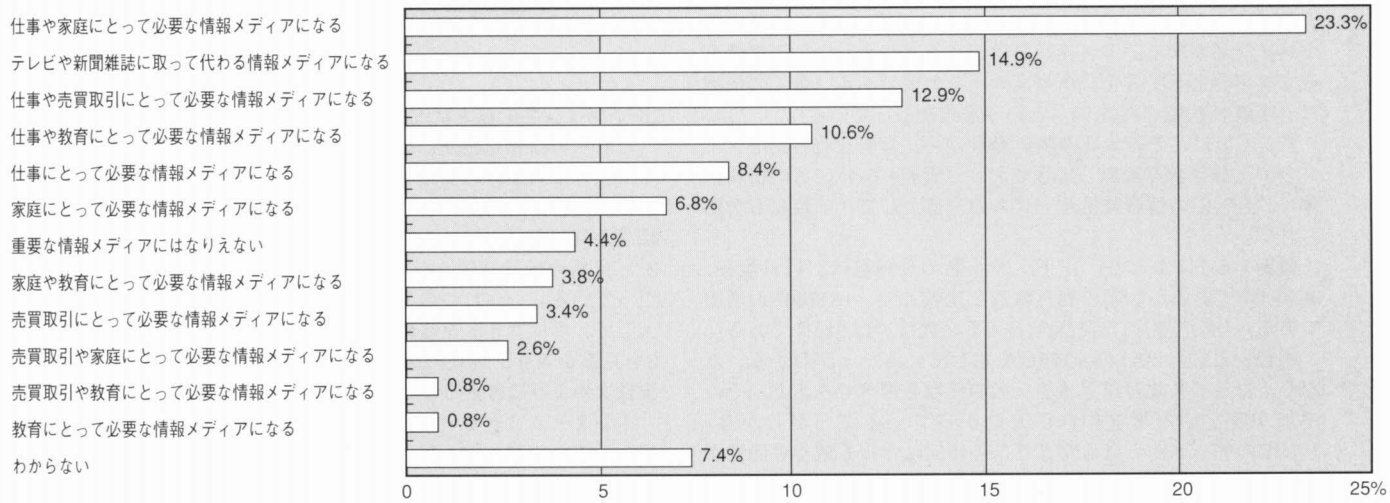
非利用者（パソコンユーザー）のインターネット利用意向は約8割

資料1-5-3　インターネットの利用意向（1997-1998年）



インターネット白書'98, インプレス
©Access Media International&IAJ, 1998

資料1-5-4　インターネット今後の浸透予測　N=502



インターネット白書'98, インプレス
©Access Media International&IAJ, 1998

解　説

行き渡っていたためと考えられる。

1-5-3　非インターネット利用者のインターネットの利用意向

非利用者のうちインターネットを認知している回答者にその利用意向を聞いたところ「ぜひ利用したい」＋「まあ利用したい」の利用派が全体の79.1%を占めた。一方の「あまり利用したくない」＋「全く利用したくない」の非利用派は15.1%となっている。これを時系列でみると、利用派（1997年81.9%）、非利用派（1997年15.1%）とも大きな変化はなく、表層的なインターネットブームが去ったとはいえ、相変わらずパソコンユーザーにおいてはインターネットの利用意向が根強いことがわかる。

1-5-4　非インターネット利用者のインターネット今後の浸透予測

非利用者のうちインターネットを認知している回答者に今後の浸透予測について聞いたところ、昨年とほぼ同じ傾向が見られた。今回第3章で触れている、個人の一般利用者と非利用者が最も異なるのはここで5位に挙げられた「仕事にとって必要な情報メディアになる」（インターネット利用者一般19.4%）と2位に挙げられた「テレビや新聞、雑誌に取って代わる情報メディアとなる」（インターネット利用者一般 6.9%）の2つである。後者では非利用者のインターネットに対する大きな期待感があらわれており、昨年に比べてもこの順位は変わらない。前者に対する認識の相違は実際の利用者であるインターネット利用者の現実感と開きが出た結果である。

潜在利用者と見られるこの回答者層で、現在のマスメディアと肩を並べる以上の認識をされている点は相変わらず興味深い。非利用者が現在のインターネットの情報メディアとしての価値を過大評価している可能性はあるが、現在最もインターネット利用者に近い潜在層の期待を裏切らないような発展が今後も望まれる。

（矢野さよみ・アクセス メディア
インターナショナル株式会社）

インターネット白書／ ©1996-2012 Impress R&D

Internet White Paper ARCHIVES
インターネット白書
ARCHIVES
1996,1997,1998,1999,2000

［インターネット白書ARCHIVES］ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

http://IWParchives.jp/

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先 | 株式会社インプレスR&D | ✉ iwp-info@impress.co.jp

©1996-2012 Impress R&D, All rights reserved.